

株式会社 LIXIL

株 主 通 信

2022年9月中間ご報告

2022年4月1日～2022年9月30日



目次

社長メッセージ	02	株式の状況	16
特集	05	会社概要	17
営業報告	11	株式実務電子提供制度	18
セグメント情報	12	報告書 発行のお知らせ	裏表紙
株主さまアンケート結果	15		



表紙：高性能ハイブリッド窓／TW P01：上段左より：人工木デッキ／デッキ DC、バスルーム／リデア、水栓／GROHE BLUE
下段左より：インテリア建材／キナリモダン、洗面ドレッサー／ルミス シス ポウルー体タイプ、断熱玄関引戸／玄関引戸 JS

社長メッセージ

➤ LIXILは、経済の不確実性、
ライフスタイルの変化に対応し、
脱炭素化社会、循環型社会の
実現に貢献してまいります。

取締役 代表執行役社長 兼
Chief Executive Officer

瀬戸 欣哉



株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

上期の決算概要

2023年3月期上期の売上収益は、困難な事業環境下において製品の安定供給に努めたことで、前年同期比5.2%増の7,327億円となりました。一方、事業利益は、想定以上の急激な円安の進行と資材・部品価格およびエネルギー価格上昇によるコスト増、物流の混乱によるコスト増に加え、米国における

大幅な金利上昇を背景とした需要の軟化、中国の不動産市況の低迷により、62億円と前年同期比で83.5%の減益となりました。

急速に変化する事業環境への対応

今期は原材料不足、原材料・資材価格の急騰、世界の輸送網の混乱に直面しました。インフレ圧力にも拍車がかかり、住宅や関連商品の需要への影響は、計り知れない部分があります。これまで長らく通用してきたビジネスの前提条件は、もはや成立しなくなっています。

第2四半期累計(上期)の実績および通期の業績予想 (単位:億円)

	第2四半期累計(上期)実績			通期実績・予想		
	22年3月期 上期実績	23年3月期 上期実績	前年同期比	22年3月期 実績	23年3月期 修正予想	前期比
継続事業に係る売上収益	6,962	7,327	5.2%	14,286	15,600	9.2%
継続事業に係る事業利益	373	62	△83.5%	649	420	△35.3%
親会社の所有者に帰属する 当期／四半期利益	257	37	△85.6%	486	250	△48.6%

日本はこれまで、デフレ経済を背景に価格上昇への抵抗が強く、価格転嫁が思うように進みませんでした。しかし、多業種にわたる企業が卸・小売の双方において値上げを実施する中、消費者からも一定の理解が得られるようになってきました。

一方、業界の慣行により、従来は新価格を反映するのに時間がかかっていましたが、商品カタログのデジタル化を進めるとともに、ビジネスパートナーの理解と協力を得られたことで、前期においては年2回以上の値上げを実施することができました。今後も原材料価格などの高騰による原価の上昇を反映した価格改定を可能な限り迅速に実

施していきます。

下期の取り組み

原材料、生産、物流のコスト増に対しては、コストの低減を図るため、引き続き代替素材への転換などを進めるとともに、販売価格への転嫁を推進します。

価格改定、サプライチェーンの強靱化、営業政策の転換や間接費の効率化など、かねてより推進してきたさまざまな施策の成果と、下落傾向にある原材料価格の効果は第3四半期以降に本格化する見込みです。

国内においては、エネルギー価格の上昇と環境への配慮から、断熱商品への需要が高まるだけでなく、政策面で

も後押しが期待できる状況になりつつあり、サステナビリティ関連商材の開発・販売に今後も注力します。

海外においてもサプライチェーンの強化を継続的に進めることで安定供給を実現し、戦略商品の拡販を通じて利益率の改善に取り組んでまいります。また、将来性のある新規事業を育て、製品やサービスを通じて社会や環境課題の解決に貢献することで、持続的な成長を実現します。

通期の業績予想見直し

下期においては、価格改定の追加施策実施と間接費の効率化による効果は期待できるものの、上期のコスト増への

対応が継続するため、通期の業績予想を下方修正しました。2023年3月期は売上収益15,600億円、事業利益420億円、最終利益*250億円を計画しています。

※親会社の所有者に帰属する当期利益

年間の配当計画は変更なし

中間配当は1株当たり45円で決議しました。1株当たりの年間配当予想は90円を維持します。

脱炭素化社会に向けて

LIXILでは、2050年までにCO₂排出量実質ゼロの達成を目指し、事業活動や商品、サービスを通じて住宅の高性能化、資源の再利用の推進、循環型新素材の開発と商業化を進めています。

日本の既存住宅のおよそ9割が、現行の省エネ基準を満たしていない現状においては、既存住宅のエネルギー効率も高めねばなりません。単板ガラスから三重ガラスにすることで、熱の流出を約80%抑えることができ、窓の断熱性を大幅に向上させることができます。

今年発売を開始した「TW」は、耐久性に優れたアルミと断熱性に優れた樹脂のハイブリッド構造と、一般複層ガラ

スの約4.8倍の断熱性能を誇る三重ガラスを掛け合わせた高性能窓です。脱炭素化の実現に向けて、窓から住宅の高性能化を推進してまいります。

[▶ P.06~参照](#)

循環型経済の実現に向けて

プラスチックごみによる環境汚染は世界的な問題ですが、廃プラスチックの多くは従来の手法では再資源化が困難で、焼却や埋め立て処分されています。この問題を解決し、限られた資源の循環利用と有効活用を実現すべく、LIXILは循環型新素材「レビア」を開発しました。廃プラスチックを原料として活用、新たな価値を生み出し、資源循環の推進と環境負荷低減を追求し、循環型社会の実現に貢献します。

[▶ P.07~参照](#)

イノベーションによる長期的な成長基盤の確立

長年にわたる成長を実現するには、継続的に「強い核となるビジネス」を生み出していくことが求められます。LIXILでは、新たなイノベーションを創造するプロセスを促進しています。

既存の事業領域内でイノベーションを促進するとともに、新規事業の創出に向けてエンドユーザーの潜在ニーズ

を素早く察知し、そのニーズに対応する製品をいち早く開発、さらにユーザーの意見を反映して、迅速に改善を図る開発手法を推進しています。

「KINUAMI U」は異業種との連携を進め、クラウドファンディングを通じて市場ニーズを素早く把握し、製品改良を重ねることで実現しました。

また、「ボディハグシャワー」は浴槽に入らない、入るのが難しい人でも、シャワーで温まることのできる、新しいシャワー体験を提供するために開発しました。シャワーの手軽さと温まりを実現し、誰にとっても使いやすく、長く使うことのできる製品やサービスを提供することで、すべての人びとの生活の質の向上に貢献します。

[▶ P.09~参照](#)

株主の皆さまへ

LIXILは、持続的な成長を実現し、存在意義である「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」を追求しています。

気候変動、経済の不確実性、そして私たちの生活の根本的な変化に対しても、力強く立ち向かっていくことができると確信しています。株主の皆さまには、引き続き、温かなご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

世界中の誰もが願う、 豊かで快適な 住まいの実現

LIXILは、「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」というPurpose(存在意義)を体現すべく、トイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、玄関ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。また、製品やサービス、事業活動を通して環境と社会の課題を解決するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献しています。



特集 1

事業活動を通じて 環境に貢献できること

LIXILは、調達から生産、流通、製品の使用・廃棄やサービスの利用に至るまで、すべてのプロセスにおいて、水、エネルギー、およびその他の天然資源の保全に努めています。

関連するSDGs



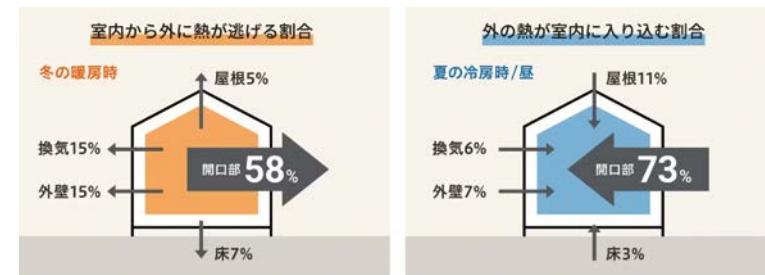
脱炭素社会の実現に向けて
窓から住宅の高性能化を推進

高性能ハイブリッド窓「TW」

国内最高水準の窓性能を備えた高性能ハイブリッド窓「TW」を発売し、すべての新築用サッシのフルモデルチェンジが完了しました。「TW」は、耐久性に優れたアルミと断熱性に優れた樹脂のハイブリッド構造と、一般複層ガラスの約4.8倍の断熱性能を誇る三重ガラスを掛け合わせた高性能窓です。LIXILは住宅の高性能化を推進し、日本の脱炭素化に貢献します。

まずは窓が断熱のカギ!

最も熱の出入りが大きい窓などの開口部は
外気温の影響を受ける大きな原因です。



※出典:日本建材・住宅設備産業協会 省エネルギー建材普及促進センター「省エネ建材で、快適な家、健康な家」

資源循環の推進と
環境負荷低減に寄与する

新しい循環型素材「レビア」

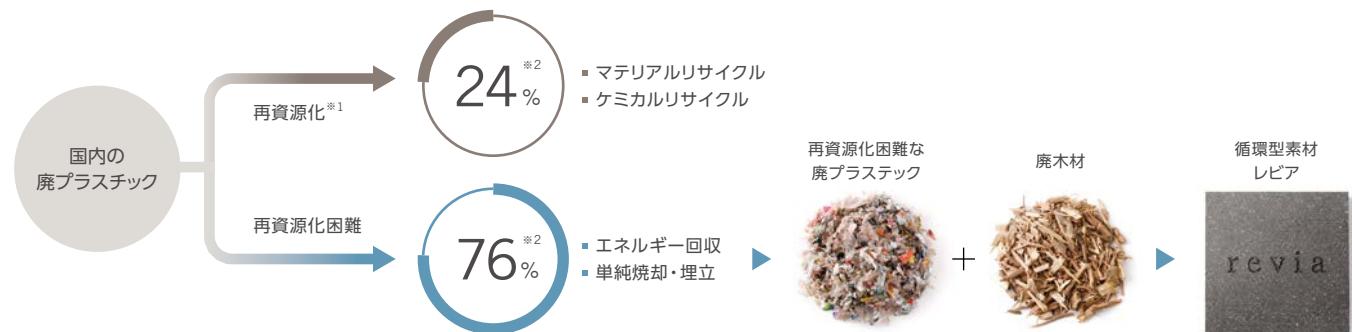
プラスチックごみによる環境汚染の解決に寄与し、限られた資源の循環利用を促進すべく、これまで再資源化が困難とされてきた廃プラスチックと、建築物の解体や補修などから生じる廃木材を融合した、循環型素材「レビア」を開発しました。第一弾製品として、歩道・広場・公園・建築外構など幅広い用途に使用可能な舗装材「レビアパイプ」を2023年1月より販売開始します。

「レビア」製品シリーズの拡充を進め、イノベーションを通じた新たな事業機会の創出と環境負荷低減を追求し、循環型社会の実現に貢献していきます。



日本国内で
廃棄されているプラスチック
年間 **822** 万トン

1人あたりのプラスチック
容器包装廃棄量
世界 **2** 位



※1 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 第一章 第二条 五項における「再資源化」とは、使用済プラスチック使用製品又はプラスチック副産物(次項及び第四条第三項において「使用済プラスチック使用製品等」という。)の全部又は一部を部品又は原材料その他製品の一部として利用することができる状態にすることをいう。

※2 出典:一般社団法人プラスチック循環利用協会「2020年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」

既築ビルでも脱炭素化の実現を目指す

「太陽光発電 ロールスクリーンシステム」

脱炭素社会の実現のためには、既築ビルでもグリーン化を推進することが急務です。そこでLIXILは、発電や蓄電機能および電力取出機能、施工性、メンテナンス性などを兼ね備えた「太陽光発電ロールスクリーンシステム」を開発し、当社オフィスビルにて実証実験を開始しました。これは省エネ、創エネおよび蓄エネの技術を有する革新的なイノベーションであり、実用化により既築ビルの高性能化の推進、脱炭素社会へ貢献を目指しています。

この成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業(JPNP20015)の結果得られたものです。



室内での実証実験の様子



住まいの断熱性や省エネ、
快適な暮らしについて発信

「断熱先生のダンネツノート」

「断熱先生のダンネツノート」は、「断熱先生」こと古溝洋明(住まいStudio東京館長)がお届けするLIXILの公式noteです。日常生活の悩みから断熱を考えたり、お得な暮らしのワザを紹介したり、LIXILが取り組んでいる断熱の現場取材してみたりと、住まいを快適にするヒントを見つけてもらえるような情報を発信しています。

https://note.com/dannetsu_note/

製品を通じた LIXILの社会貢献

年齢、性別、障がいの有無、ライフスタイルなど多様化する消費者ニーズをいち早く掴み、開発しています。誰にとっても使いやすく、長く使用できる製品やサービスを提供し、世界中の人びとの生活の質の向上に貢献します。

5分浴びるだけで身体が温まる

「ボディハグシャワー」

浴槽に入らない、入るのが難しい人でも、シャワーで温まることのできる、お湯に「ハグされる」感覚の新しいシャワースタイルを提供する「ボディハグシャワー」を発売

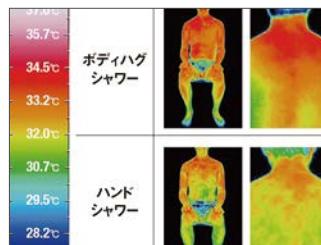


関連するSDGs



シャワーの手軽さと温まりを実現

本商品最大の特長は、5分間浴びるだけで、従来のシャワー浴よりも身体全体が温まることです。10個のノズルから同時に吐水をするので、全身を一度に温めることができ、「ボディ“ハグ”シャワー」という名前のごとく、お湯に「ハグされる」感覚がする浴び心地を提供するシャワーです。



開発背景

既存のお風呂にも設置しやすいデザインを目指しました。アームは10台以上、ノズルは200種類以上テストし、現在の仕様に落ち着きました。これにより新しいデザインかつ理想的な温まりと浴び心地が生まれました。浴槽浴利用と比較し、年間で水道料金とガス料金を節約できます。



濃密で温かく全身を包み込む“絹泡”を生成する泡シャワー

「KINUAMI U」

シャワーヘッドから出るお湯を、スイッチひとつで濃密で温かく全身を包み込む“絹泡”を生成する泡モードに変えることができ、新しい入浴スタイルをご提案する類例のない画期的なシャワーを発売

柔らかく温かい濃密な“絹泡”で
肌にやさしいボディウォッシュ

消防車や消火機器に使われている泡生成技術を応用し、人の手では泡立てられないような濃密な泡を生成します。空気をたくさん含む絹泡は、身体から熱が逃げるのを抑え、温かさを維持します。また専用ボディソープには、保湿成分が配合されているため、スキンケアを自然に取り入れられます。

開発背景

LIXILのユニバーサルデザインコンセプト「ひとりにはいい、みんなにいい、ずっといい」のもと、おうち時間を有意義に過ごしたい方、仕事の疲れを癒やしたい方、親子でバスタイムを楽しみたい方、身体の具合で満足いく入浴を諦めていた方、負担を軽減しながら快適な入浴助をしたい方など、幅広い層の方にこれまでにない心地よいバスタイムを提供するため、「KINUAMI U」を開発しました。

主な経営指数の推移(連結、国際会計基準)

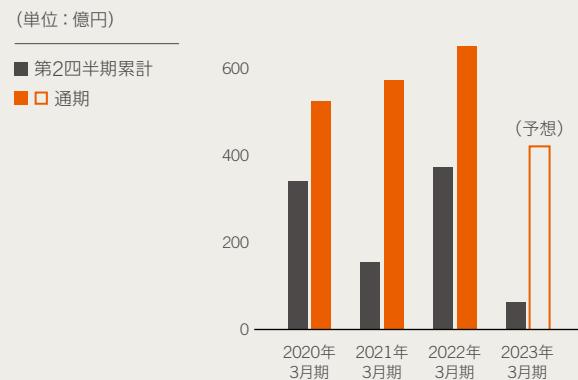
	当第2四半期 累計期間 自2022年4月 1日 至2022年9月30日	前第2四半期 累計期間 自2021年4月 1日 至2021年9月30日	前期 自2021年4月 1日 至2022年3月31日
売上収益(億円)	7,327	6,962	14,286
事業利益*(億円)	62	373	649
営業利益(億円)	100	372	695
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益(億円)	37	257	486
資本合計(億円)	6,392	5,689	6,150
資産合計(億円)	18,888	17,116	17,829
営業活動によるキャッシュ・フロー(億円)	△364	416	1,183
投資活動によるキャッシュ・フロー(億円)	△76	△160	△248
財務活動によるキャッシュ・フロー(億円)	543	△380	△1,081
現金及び現金同等物の四半期(当期)末残高(億円)	1,148	989	1,004
親会社所有者帰属持分比率(%)	33.7	33.1	34.3
親会社所有者帰属持分当期利益率[ROE](%)	—	—	8.3
基本的1株当たり四半期(当期)利益[EPS](円)	12.85	88.46	167.21
1株当たり親会社所有者帰属持分[BPS](円)	2,216.96	1,948.85	2,106.30
1株当たり四半期(年間)配当金(円)	45	40	85

※日本会計基準における「営業利益」と同等、事業利益=売上収益-売上原価-販管費

売上収益の推移

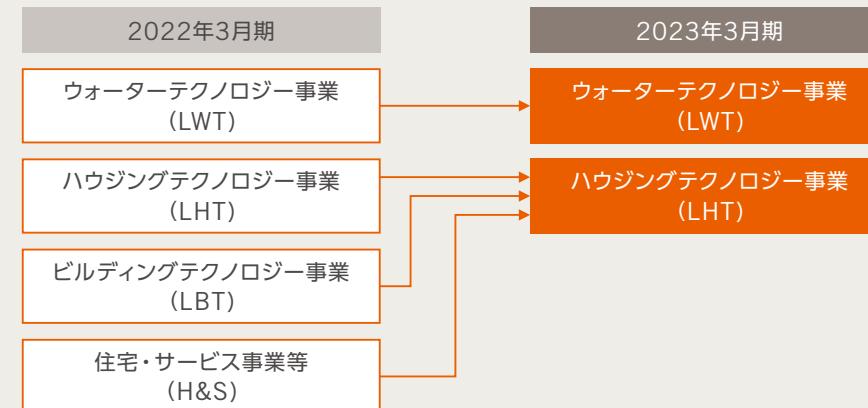


事業利益の推移



報告セグメント変更に関するお知らせ

親和性の高い事業間での連携を強化して事業の成長と利益率向上をさらに加速するため、今期からビルディングテクノロジー事業および住宅・サービス事業等をハウジングテクノロジー事業に統合しました。

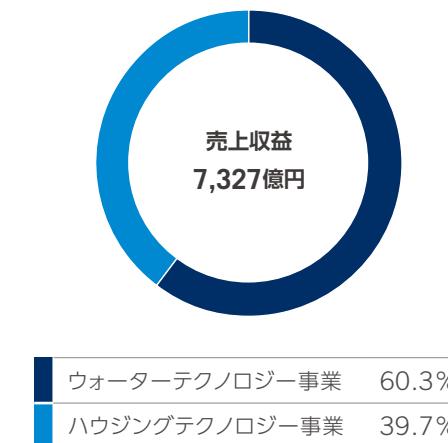


セグメント別の営業状況

(単位: 億円)

	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間	前年 同期比
売上収益	7,327	6,962	5.2%
ウォーターテクノロジー事業	4,461	4,205	6.1%
ハウジングテクノロジー事業	2,932	2,843	3.1%
(調整額)	△67	△86	—
事業利益	62	373	△83.5%
ウォーターテクノロジー事業	207	408	△49.3%
ハウジングテクノロジー事業	60	186	△67.8%
(調整額)	△205	△221	—

売上収益内訳(当上期)



セグメント情報

ウォーターテクノロジー事業



写真：「iF Design Award 2021」受賞の「SATIS S タイプ」



上期の決算概要

日本では、価格改定効果およびリフォーム売上の伸長などにより増収となりました。海外では、米国の金利上昇を背景とした需要軟化、中国における不動産市況の低迷の影響を受けましたが、好調なアジア太平洋地域が売上を支え、現地通貨ベースでは前年と概ね同水準となりました。加えて急激な円安の影響もあり、円貨ベースでは増収となりました。事業利益は、価格改定および好調な中高級価格帯・リフォーム商品の売上増加があった一方で、資材・エネルギー価格を含むコスト上昇や円安影響などにより、前年同期比では減益となりました。結果として、当事業の売上収益は6.1%増の4,461億円、事業利益は49.3%減の207億円となりました。

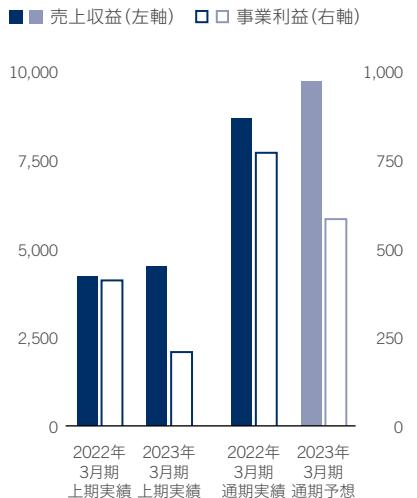
下期の取り組みと2023年3月期業績予想

日本では、新築着工の動向は注視していますが、リフォーム需

要は引き続き堅調であると見込んでいます。特に住宅性能・快適性の向上を目的としたリフォーム商品を拡販してまいります。また、海外では、米国における住宅市場の景気後退が予想されますが、販売チャネルの拡大推進により対応してまいります。欧州は、エネルギー価格等の上昇、更なる金利引き上げによる景気の後退が懸念されますが、受注は好調です。物流網の安定化を通じて、成長機会を取り込んでまいります。中国は、不動産開発業者に対する財務健全化規制により不動産市況の低迷から需要は低成長を見込んでおり、利益率の高い小売り向けの拡販を推進します。アジア太平洋地域の経済活動は引き続き回復が続くと見込んでいます。利益面では、コストの上昇については間接費の効率化に努めるとともに、価格の適正化を推進します。なお、これらの状況および上期の業績を踏まえ、通期の業績予想を売上収益9,670億円、事業利益580億円に修正いたしました。

売上収益・事業利益の推移

(単位：億円)



ハウジングテクノロジー事業



写真：「リフォームシャッター 三方枠納まり」



上期の決算概要

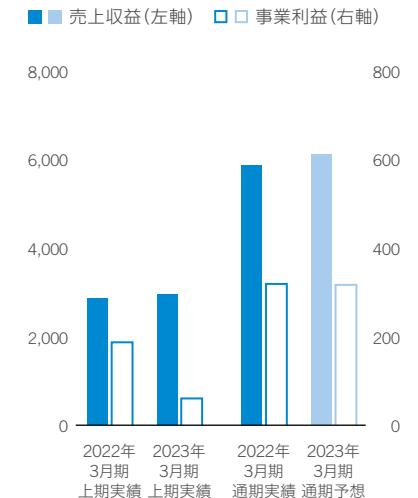
価格改定および住宅性能・快適性の向上を目的としたリフォーム需要の増加などにより、増収となりました。一方で、事業利益は、資材価格の更なる上昇に加えて、海外からの部品・製品輸入も想定以上の急激な円安によるコスト増加の影響を受けました。価格改定の活動は6月から開始していますが、10月以降も引き続き継続しているため、実質的な価格改定による効果の大半は下期以降に発現する見込みです。結果として、売上収益は3.1%増の2,932億円、事業利益は67.8%減の60億円となりました。

下期の取り組みと2023年3月期業績予想

コロナ禍において、住宅性能および快適性の向上を実現するリフォームに対する需要が旺盛なことに加え、エネルギー価格の上昇や政府による需要喚起の政策などにより、特に窓を中

売上収益・事業利益の推移

(単位：億円)



心とした断熱商品への需要は強く、冬季以降の需要増を見込んでいます。当社としてはこの需要を着実に捉え、リフォーム売上を拡大していきます。

また、当事業の主要原材料であるアルミニウムの市場価格が一時期急騰しましたが、直近ではピークを越えて落ち着きつつあり、下期以降にはコストダウン要因として業績に寄与する見込みです。

利益面では、資材・物流費の高騰や円安影響に対しては引き続き間接費の効率化に努めるとともに、価格の適正化を推進していきますが、これらの状況および上期の業績を踏まえ、通期の業績予想を売上収益6,070億円、事業利益315億円に修正いたしました。

株主さまアンケート結果

多数のご回答をいただき、誠にありがとうございました。貴重なご意見・ご要望は今後の経営やIR活動に活かしてまいります。いただいたお問い合わせ・ご意見の中から一部をご紹介します。

株主さまからのお問い合わせにお答えします



イノベーションについてどのような取り組みをしていますか。

LIXILは「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」という存在意義を追求するため、事業を通して、暮らしにかかわる社会課題の解決に取り組んでいます。

その一例として、LIXILは新しい循環型素材「レビア」を開発

しました。これまで再資源化が困難とされてきた廃プラスチックを使い捨てることなく、原料として利用することで、新たな価値を生み出しました。

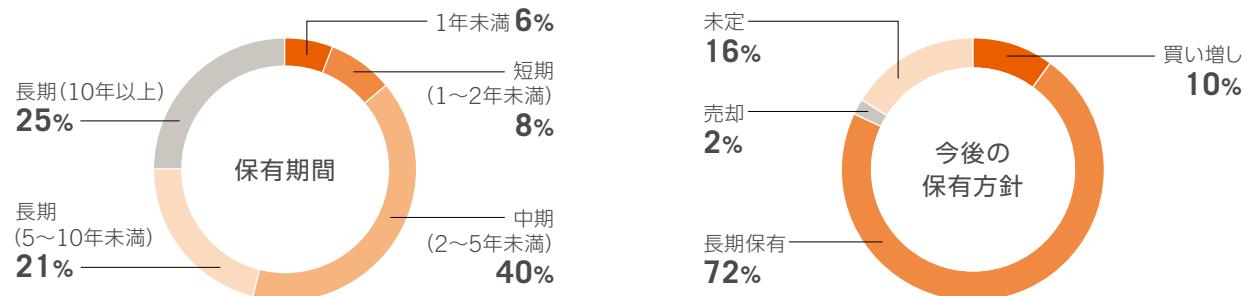
「レビア」1トンの製造工程で排出されるCO₂排出量と、レビアに使われる廃プラスチックや廃木材が焼却処理された場合のCO₂排出量を比較すると、82%のCO₂排出量の削減につながります。

また、ステークホルダーの皆さまとの連携で「レビア」を新規事業の成長へつなげてまいります。

[P.07参照](#)

ご回答者の保有期間・保有方針について

ご回答者の約半数が5年以上の長期保有者であり、今後も長期での保有をお考えです。



いただいたご意見・ご要望の一部をご紹介します

- 株主通信でLIXILの製品を紹介してください。
- 「GROHE QuickFix」はよい取り組みだと感じています。
- 社会貢献活動の更なる推進をお願いします。

株式の状況 (2022年9月30日現在)

株式数および株主数

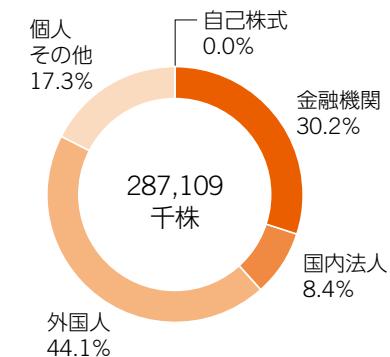
発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数 (自己株式48,362株を除く)	287,061,297 株
株主の総数	48,745 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	48,642*	16.94%
JP MORGAN CHASE BANK 385632 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	22,432	7.81%
(株)日本カストディ銀行(信託口)	14,018*	4.88%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	12,916	4.50%
LIXIL従業員持株会	6,509	2.27%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	5,518	1.92%
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	5,214	1.82%
JPモルガン証券(株)	5,095	1.78%
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	5,092	1.77%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済営業部)	4,180	1.46%

(注) 1. 上記の他に当社は自己株式48千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
2. ※はすべて信託業務に係るものです。

所有者別分布状況



金融機関	86,635千株
国内法人	24,091千株
外国人	126,588千株
個人その他	49,746千株
自己株式	48千株
合計	287,109千株

免責事項

この株主通信には、(株)LIXILの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績はさまざまな重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

会社概要

会社概要

社名 株式会社LIXIL
 英文社名 LIXIL Corporation
 設立年月日 1949(昭和24)年9月19日
 本店 〒141-0033 東京都品川区西品川一丁目1番1号 大崎ガーデンタワー(2022年11月14日移転)
 資本金 68,418百万円
 決算期 3月31日
 従業員数 連結 51,728名(2022年9月30日現在)
 主な事業内容 住宅およびビルの建材・設備機器の製造・販売、その他住宅に付帯する事業およびその関連サービス業

取締役

取締役 瀬戸 欣哉
 取締役 松本 佐千夫
 取締役 ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
 社外取締役 内堀 民雄
 社外取締役 金野 志保
 社外取締役 鈴木 輝夫
 社外取締役 田村 真由美
 社外取締役 西浦 裕二
 社外取締役 濱口 大輔
 社外取締役 松崎 正年
 社外取締役 綿引 万里子

執行役

代表執行役社長 瀬戸 欣哉
 代表執行役副社長 松本 佐千夫
 執行役専務 ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
 執行役専務 金澤 祐悟
 執行役専務 ビジョイ・モハン
 執行役専務 吉田 聡
 執行役専務 大西 博之
 執行役専務 君嶋 祥子

外部評価

Member of
Dow Jones Sustainability Indices
 Powered by the S&P Global CSA



「Dow Jones Sustainability World Index」
 「DJSI World」の構成銘柄に3年連続で選定、同時に「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄にも選定(2021年11月)



「CDPウォーターセキュリティ」
 最高位Aランクに選定(2021年12月)

「FTSE4Good Index Series」
 「FTSE Blossom Japan Index」
 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
 「FTSE4Good Index Series」と「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に5年連続で選定、新設された「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定(2022年6月、2022年3月)



「CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダーボード」
 最高評価を2年連続で獲得(2022年2月)

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
 女性活躍指数(WIN)

「MSCI日本株女性活躍指数」
 「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄に6年連続で選定(2022年6月)



「The Sustainability Yearbook 2022」
 Bronze Classに選定(2022年2月)



「MSCI ESG Ratings」
 MSCI社の「ESG Ratings」がAからAAに、2年連続でランクアップ(2022年5月)

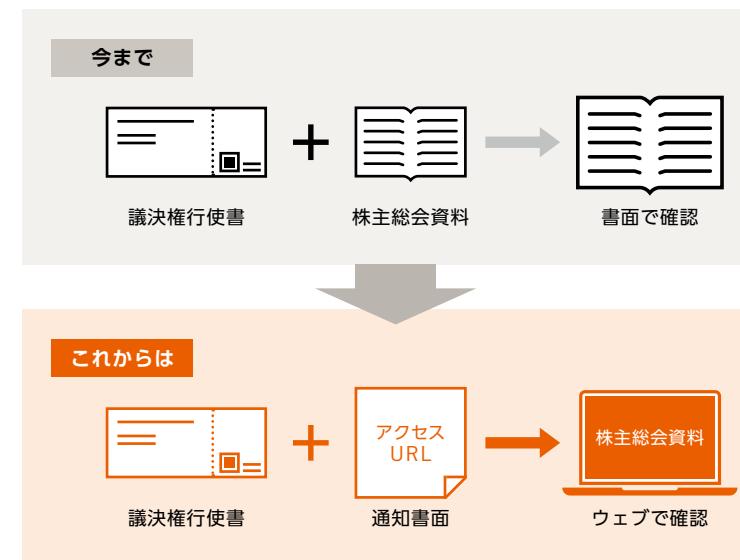


「DX銘柄2022」
 経済産業省、東京証券取引所、独立行政法人情報処理推進機構が共同で実施する「デジタルトランスフォーメーション銘柄2022」に選定(2022年6月)

株式実務電子提供制度

株主総会資料が原則ウェブ化されます

会社法改正により、2023年3月以降の株主総会より、株主総会資料は当社ウェブサイト等でご提供します。株主さまにはウェブサイトへのアクセス方法等を記載した通知書面と議決権行使書をお送りします。



インターネットのご利用が 困難な株主さまへ

株主総会資料を書面で受領されたい場合は、株主総会基準日までに、書面で受領するためのお手続き(書面交付請求)をしていただく必要があります。2023年6月開催予定の定時株主総会については、下記のお問合せ先にお申し出いただき、**2023年3月31日まで**にお手続きを完了ください。

電子提供制度に関する お問合せ先

口座を開設されている証券会社又は
三菱UFJ信託銀行 証券代行部 テレホンセンター
 電子提供制度専用ダイヤル **0120-696-505**
 (受付時間:土・日・祝日等を除く平日 9:00~17:00)
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>



報告書 発行のお知らせ

ウェブサイトに掲載している下記デジタル版の報告書では、より詳細な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



統合報告書 2022

 <https://s.lixil.com/integratedr2022>



本編



データブック



コーポレート・レスポンスイリティ報告 2022

 [本編 https://s.lixil.com/cr2022](https://s.lixil.com/cr2022)
[データブック https://s.lixil.com/crdata2022](https://s.lixil.com/crdata2022)

お問い合わせ先

株式会社LIXILに関するお問い合わせ

■ 三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711 ■ LIXIL：050-1790-5765

本誌の内容についてのお問い合わせ

■ LIXIL：IR室 050-1790-5041

株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。商品により電話番号が異なりますのでご注意ください。

受付時間 平日 9:00～18:00、土日祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

※新型コロナウイルス感染症の対策のため、お電話でお待ちいただいたり、回答にお時間をいただく場合がございます。

■ トイレ、化粧台、浴室商品、タイル商品
☎ 0120-179-400

■ キッチン商品
☎ 0120-190-521

■ サッシ、ドア、エクステリア
☎ 0120-126-001

株式会社 LIXIL

本店：東京都品川区西品川一丁目1番1号 大崎ガーデンタワー

ホームページ：<https://www.lixil.com/jp/>